

インドネシア経済視察実施報告書

東京 NBC 国際交流委員会海外視察 2013

一般社団法人東京ニュービジネス協議会 国際交流委員会 主催
公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会 共催
2013/7/28～8/1

目次

I	参加者名簿	1 ページ
II	期間	2 ページ
III	渡航費用	2 ページ
IV	ミッションの目的	3 ページ
V	視察内容	3 ページ
VI	成果報告	3 ページ
	1、視察レポート	5~9 ページ
	2、インドネシア概況	10~12 ページ
	3、アンケート結果報告	12~14 ページ

インドネシア経済視察ミッション報告書

以下のとおりインドネシア経済視察ミッションの報告を致します。

I.参加者名簿

32名+事務局2名 計34名 (以下 敬称略)

No.	所属 NBC	NBC 役職	法人名	役職	会員名
1	JNB	会長	(学)新潟総合学園、NSGグループ	総長	池田 弘
2	JNB 東京NBC	副会長 会長	(株)フォーバル	代表取締役会長	大久保 秀夫
3	JNB	副会長	(株)シェイプアップハウス	代表取締役社長	下村 朱美
4	徳島NBC	会長	阿波製紙(株)	取締役社長	三木 康弘
5	愛媛NBC	会長	(株)ダイキアクシス	代表取締役社長	大亀 裕
6	21世紀NBC	会長	(株)デンセン	代表取締役社長	若林 順平
7	東京NBC	副会長、国際部門長	(株)光彩工業	代表取締役社長	深沢 栄治
8	東京NBC	副会長	アートグリーン(株)	代表取締役社長	田中 豊
9	東京NBC	副会長	明成建設工業(株)	代表取締役社長	西村 剛敏
10	東京NBC	理事	ピナクル(株)	代表取締役会長兼社長兼 CEO	安田 育生
11	東京NBC		(株)アジアゲートウェイ	代表取締役	道端 やす代
12	東京NBC		ヴェルト(株)	代表取締役	羽富 孝
13	東京NBC		(株)京都栄養化学研究所	代表取締役社長	平田 清紀
14	東京NBC		(学)佐野学園 神田外語大学	キャリア教育センター 次長	杉本 雅規
15	東京NBC		(学)佐野学園 神田外語大学	コーディネーター	田中 理明
16	東京NBC		(学)佐野学園 専門学校神田外語学院		和崎 了
17	東京NBC	国際交流副委員長	サリカ(株)	代表取締役社長	辰野 元信
18	東京NBC	国際交流副委員長	東明総研(株)	取締役 副学院長	林 すたーらいと
19	東京NBC		監査法人ナカチ	統括代表社員(CEO)	安藤 算浩
20	東京NBC		(株)ビジョン	社長室室長	五味 陽介
21	東京NBC		(株)ファンタジスタ	代表取締役	栗原 弘樹
22	東京NBC		Hopewill Group(Holdings)Ltd.	ジャカルタ駐在員、事務所所長	赤石 堅暢
23	東京NBC		税理士法人丸の内ビジネスコンサルティング	公認会計士	金光 良昭
24	新潟NBC		アイマーク環境(株)	会長	伊藤 憲三
25	新潟NBC		アイマーク環境(株)		伊藤 悠起
26	新潟NBC		(株)NSGインターナショナル	代表取締役	牧浦 秀紀
27	新潟NBC		新潟国際異業種共同組合	専務理事	山森 尚
28	新潟NBC		(学)新潟総合学園		後関 健一
29	徳島NBC		四国八洲薬品(株)	部長	木内 学
30	徳島NBC		ファミリーハウジング(有)	専務取締役	栗本 剛志
31	香川NBC		徳武産業(株)	取締役副社長	西尾 政展
32	香川NBC		徳武産業(株)	東日本営業	川島 健忠

Ⅱ.期間 平成 25 年 7 月 28 日 (日) ～8 月 1 日 (木)

Ⅲ.渡航費用 一人 18 万 9000 円

(※ 2 名一室利用の基本料金。シングル利用やグレードアップなど各自別途料金)



一般社団法人 東京ニュービジネス協議会国際部門 主催



公益社団法人 日本ニュービジネス協議会連合会 共催

- 日程 : 2013年7月28日(日)～8月1日(木) 5日間
- 利用予定航空会社: ガルーダ・インドネシア航空
- 利用予定ホテル(ジャカルタ): ル・メリディアン・ジャカルタ
- 利用予定ホテル(バリ): メリア・バリ・ヴィラ&スパリゾート本館
- 最少催行人員: 25名(但し、定員は35名とします)
- 添乗員: 全行程同行します
- 食事条件: 朝3回、昼2回、夕4回(機内食除く)
- 旅行代金: **お一人様 189,000 円**(成田発着2名1室利用)

【旅行代金に含まれるもの】

日程表記載の航空券代(エコノミークラス)、日程表記載の宿泊代(2名1室利用)、日程表記載の食事代、日程表記載の専用車代及びガイド代、7/31の宿泊ホテルレイトチェックアウト代、同行添乗員諸経費

【旅行代金に含まれないもの】

燃油サーチャージ・成田空港施設使用料・海外空港諸税・航空保険料(約31,540円、2013年4月1日現在)、一人部屋追加代金(36,000円)、食事飲物代、クリーニング等の備品使用料、入国の査証取得料(お一人様US\$20)、その他前項「旅行代金に含まれるもの」の他は含まれません。

(行程案) ※以下内容は予定となっております。一部変更する場合がありますので、ご了承ください。

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	スケジュール	食 事
1	2013年 7月28日(日)	東京(成田)発 ジャカルタ着	12:00 17:35 夜	GA885 専用車	所要時間:7時間35分 時差:日本-2時間 着後、ホテルへ 視察団結団式 <ジャカルタ泊>	夕: ○
2	7月29日(月)	ジャカルタ	午前 午後 夜	専用車	現地視察(JETRO等) 現地日系企業視察(3社程度) 企業交流懇親会 <ジャカルタ泊>	朝: ○ 昼: ○ 夕: ○
3	7月30日(火)	ジャカルタ発 デンパサール着	朝 9:45 12:50 夜	専用車 GA404 専用車	空港へ 所要時間:2時間5分 時差:ジャカルタ+1時間 着後、視察へ(2社程度) 懇親会 <バリ泊>	朝: ○ 昼: ○ 夕: ○
4	7月31日(水)	バリ デンパサール発	終日 *24:25	自由行動 専用車 GA880	自由行動 空港へ 所要時間:7時間25分 時差:デンパサール+1時間 <機内泊>	朝: ○ 昼: × 夕: ○
5	8月1日(木)	東京(成田)着	8:50		着後、解散となります	朝: 機内

ご注意:発着時間、交通機関等は変更になる場合がございます。
GA:ガルーダ・インドネシア航空

IV. ミッションの目的

インドネシアは世界第4位の人口大国として、今後の市場拡大、豊富な労働力の供給という点で大きな優位性を有しており、今後の成長が最も期待されている国の一つである。

インドネシア最大の都市ジャカルタを中心に分析・視察する事で、中小ベンチャー企業がASEANの成長市場を狙い海外進出する際の拠点として、インドネシア（ジャカルタ）が適切な場所と言えるか、優位点や留意点を総合的に判断する。

V. 視察内容

- 《ジャカルタ》 (1日目) 団結式
(2日目) JAC インドネシアジャカルタ 訪問
ジェトロジャカルタ ブリーフィング
Bestbuy World (HK) Limited 村上代表講演
現地ショッピングモール視察 (Plaza Semanggi)
九州NBC・現地企業との懇親会
- 《バリ》 (3日目) バリマーケット視察
現地企業との懇親会

VI. 成果報告

一般社団法人東京ニュービジネス協議会と公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会は、インドネシア現地企業の訪問視察

JETROジャカルタ及びインドネシア進出日系企業の講演会

現地日系企業との交流会

等を通じて、その規模と成長性等から、インドネシアを進出先としておおいに期待のもてる国であると判断する。その判断材料となる「優位点」及び「留意点」は、下記に報告をする。

優位点の理由は、以下3点である。

①豊富な労働力

インドネシアの人口2億3756人は世界の第4位である。その人口の多さに加えて、1975年から続く人口ボーナス期であり、これは2030年まで続くと言われている。これにより豊富な労働力確保が可能である。*子供と高齢者の数に比べ、働く世代の割合が増えていくことによって、経済成長が後押しされること。

また、中間所得層が10年で約12倍に拡大をしており、富裕層だけでなく中間層を含めると消費大国として今後も期待ができる。

②資源大国

インドネシアは18,000余りの島々から成る群島国家で、国土は日本の5倍である。熱帯気候でありながらも2,000メートル超の山々や火山も多くあり、バリエーション豊かな自然環境である。

そのため、石油やガスなどの天然資源や、水産資源、農林資源、またバリ島などの観光資源に恵まれている。

③新日国

インドネシアでは日本人及び日本製品に対して高い信頼感と好感がある。

J E T R Oが2010年9月～11月にジャカルタで実施した調査によると、家電・生活用品・飲食品・衣類等の分野で日本製品への信頼の高さが確認された。また英放送BBCワールドサービスが2009年11月～2010年2月に実施した調査によると、インドネシア人の日本人に対する高感度は71%であった。

留意点の理由は、以下3点である。

①インフラ状態

首都のジャカルタに人口が集中しているため、酷い交通渋滞がある。また、港湾については貨物の取引量に対して整備が間にあっておらず貨物が滞留する、などが深刻な問題となっている。また、エネルギー（電力・ガス）供給も不安定な状態である。

②労働問題

インドネシアの労働法は、労働者保護の色が強い傾向にあり、現地人を正社員で採用すると解雇は非常に難しくコスト面でも負担が大きい。そのため企業は非正規従業員を多く雇用する傾向がある。近年インドネシアでは正社員化や賃上げを要求するデモやストライキが多発しているため、現地人を採用する際の雇用形態の選択には慎重な判断が必要となる。

③法的不透明性

非政府組織トランスペアレンシー・インターナショナルが2012年度に実施した腐敗認識指数調査によると、インドネシアは176カ国中118位で、贈収賄によるリスクが非常に高い状況にあることがわかる。

インドネシアでは公務員給与が民間と比べると低いこともあり、役所手続の便宜および通関時の手続の便宜を得るための支払い、また交通違反時等の警察官への支払い、などの事例が少なくない。特に司法の腐敗は顕著であり、裁判官の買収による有利な判決の引き出しなどは日常的であると言われる。

1、視察レポート

以下、視察内容や講演内容のポイント、写真等を紹介する。

7月29日（月）

(1) <JAC Recruitment インドネシア「ジャカルタ本社」訪問>

JAC Recruitment Group は 1975 年ロンドンでスタートした日系のグローバル人材紹介会社である。現在、日本に 6 拠点（東京、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸）、アジア 13 拠点、世界 8 カ国（シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、中国、香港、韓国、イギリス）に展開。

当日は、インドネシア代表の吉原穂子アスマラ氏より挨拶があり、その後上田ぬ美子氏よりインドネシアの労働法の基本、労働市場、労働組合について、等々の講義の後、オフィス内を見学。

講義のポイントとしては、

- (ア) 設立 10 年目で、登録者日本人約 2500 名、インドネシア人約 5 万人、利用企業は約 1,000 社となり、インドネシアの雇用促進の拡大を感じているようである。また、人材紹介部門ではスタッフレベルから GM レベルの日本人、日本語ができるインドネシア人、その他専門職のインドネシア人の紹介を行っていることから、ビジネスの種類、必要なビジネススキルの幅が拡大している事が伺え、優位点①（豊富な人口）の検証ができたと言える。
- (イ) その半面、ジョブホップや、賃上げストへの対応が必須とも説明があり、留意点②（労働問題）に関する生の情報が得られた。 ※ジョブホップ…転職を繰り返すこと。



代表の吉原穂子アスマラ氏



上田ぬ美子氏の講義の様子



洗練されている JAC のオフィス



従業員の皆さんと名刺交換

(2) <JETROジャカルタ ブリーフィング>

JETROジャカルタ事務所 経済連携促進アドバイザーの鎌田慶昭氏より、インドネシアの最新情報及び進出先としての魅力と問題点について事情説明を聞く。

説明のポイントとして

- (ウ) 近年は製造業に加え、飲食やITなどの非製造業である外国企業の進出も活発になってきている中、2013年は日系企業の進出の勢いが弱まっている。進出する日系企業の投資環境は労務問題を中心に厳しい状態である。留意点②（労働問題）に相当する情報が多い。
- (エ) 一方、実力を付けてきた地場企業と連携し、お互いの強みを生かして補完関係を築こうとする日系企業も増えている。



JETROジャカルタ 鎌田慶昭氏



会場の様子

(3) インドネシア進出日系企業セミナー <Bestbuy World (HK) Limited>

BestbuyWorldは、インドネシアやシンガポール、マレーシア、香港の4か国で8万人の会員を持つ化粧品のネットショップを運営する日系企業。代表の村上繁生氏より、現地でのビジネスでの成功の秘訣や、難しさなどを本音で語ってもらう。

説明のポイントとして

- (オ) 日本製品の品質の良さは理解が深まっているが、そのみならず、日本の配送システムを活かし、気づかいのお届け方式を取ったことが喜ばれているとあり、優位点③（親日国）を確認できた。
- (カ) 赤字続きであったインドネシア事業において、今期初めて黒字になったと報告があった。やはり大きな人口ボーナスを上手く取り入れることへのコツが必要で、継続的なファンを作る努力が大切であるとのこと。優位点①（豊富な人口）に期待した事業展開の良い事例である。



BestbuyWorld 村上代表

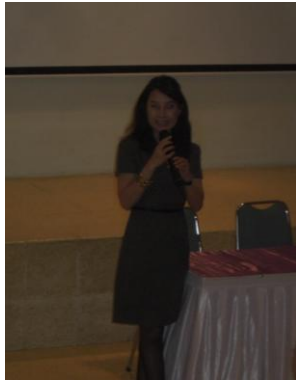


講演の様子

(4) <アトマジャヤ大学見学>

JETROジャカルタ鎌田氏とBestbuyWorldの村上氏の講演会については、アトマジャヤ大学の講堂を借りて開催した。

アトマジャヤ大学は、インドネシアジャカルタにあるキリスト教系の総合大学である。今回の視察旅行に参加された神田外語大学の姉妹校ということから会場を貸与頂いた。副学長にも挨拶をもらったのち学内の見学を行った。



アトマジャヤ大学副学長



プレゼントの盾を受け取るJNB池田会長



校内の風景

(5) <ショッピングモール PlazaSemanggi 視察>

アトマジャヤ大学に隣接する巨大ショッピングモール「Plaza Semanggi」を各自が自由に視察。このショッピングモールは、富裕層や外国人ではなく、多くの現地庶民が買い物や遊びに訪れる場所のため、リアルな生活感を感じられた場所であった。

視察のポイントとして

(キ) 活気あふれるマーケットを感じる場であった。



Plaza Semanggi 外観



広大なカーペット売り場



イートインコーナー

(6) <(一社)九州NBC合同 懇親会>

ジャカルタのLeMeridienHotelにて、(一社)九州ニュービジネス協議会の視察団と合流をし、また多くのゲストも迎えて、総勢70名を超える人数の大懇親会を開催した。

ゲストには、アジア最大級の総合製紙メーカーである「APP (アジア・パルプ・アンド・ペーパー)」から社長のTimOoi氏を初め6名もの幹部、インドネシア初めとするアジアでコンサルタント事業を行う「DreamWorld」の西田氏、バリで32社のグループ・従業員数

5千名を抱える企業で、創業者の著書がベストセラーにもなっている「出稼げば大富豪」事務局長の川口氏、ほか、JACインドネシアの吉原毬子アスマラ代表、BestbuyWorldの村上代表もかけつけ、多彩なゲストとともに大いに盛り上がった時間となった。



JNB 池田会長 開会挨拶



九州 NBC 長谷川会長 挨拶



東京 NBC 大久保会長乾杯



乾杯



APP TimOoi CEO



DreamWorld 西田氏



出稼げば大富豪 川口事務局長



司会の東京 NBC 林氏、現地衣装で



会場の様子



会場の様子



会場の様子



JNB 下村副会長 閉会挨拶

7月30日（火）

(1) <バリ バリマーケット視察>

バリのクタ地区にあるディスカバリーカルティカプラザホテルにて、バリ進出日系企業の方々と昼食会を開催。バリでエステ店や飲食店を経営している長野の企業（株）カワモトの河本豊子氏とご子息、そして、日本人向けバリ情報誌（フリーペーパー）アピマガジンの村上氏が参加。昼食会後は、近くの目抜き通りにある、河本氏経営の、鉄板焼き店・ラーメン店（建設中）・エステ店を歩いて見学した。

視察のポイントとして

(ク) ここでも、留意点②（労働問題）についての話があった。会社への愛社精神についてはプライオリティーがかなり低いという事実があるとのこと。インドネシア人の重要度は、第一に家族、第二に宗教、そして仕事はかなり後ろの順位。そのため、家族や宗教を大切にする気持ちや行動をいかに理解してあげるかという事が、現地スタッフと気持ちよく一緒に仕事をするコツだということである。



アピマガジン村上氏



河本社長を囲んで



21世紀NBC若林会長から河本氏を紹介



鉄板焼き店



エステ店内



エステ店外観

(2) <バリ 懇親ディナー>

レストラン BumbuBari にて、昼に店舗視察をした(株)カワモトの河本氏とご子息、そして、アピマガジンの村上氏を迎えての懇親ディナー会を開催。
老舗のバリ料理レストランでバリの伝統料理を味わう。



懇親会の様子



2. インドネシア概況



一般事情

1. 国土 191万931km² (日本の約5倍)
2. 人口 約2.37億人
3. 首都 ジャカルタ
4. 民族 ジャワ族 (41.7%)、スンダ族 (15.4%)
5. 言語 インドネシア語
6. 宗教 イスラム教 88.6%、キリスト教 8.9%、ヒンズー教 1.7%、仏教 0.6%
7. 政治体制・政体 大統領制、共和制
8. 元首 スシロ・バンバン・ユドヨノ大統領 (2004年～)

経済

1. 主要産業

製造業 (24%) : 輸送機器 (二輪車など), 飲食品など

農林水産業 (15%) : パーム油, ゴム, 米, ココア, キャッサバ, コーヒー豆など

商業・ホテル・飲食業 (14%)

鉱業 (12%) : LNG, 石炭, ニッケル, 錫, 石油など

(カッコ内は2011年における実質GDP構成比) (インドネシア政府統計)

2. GDP	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
(名目)	3,643	4,330	5,088	5,613	7,071	8,471	8,794

(単位: 億ドル) (インドネシア政府統計)

3. 一人当り GDP	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
(名目)	1,663	1,862	2,191	2,349.8	2,977.0	3,498.2	3,562.9

(単位: ドル) (インドネシア政府統計)

4. 一人当り GNI	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
(名目)	1,390	1,610	1,950	2,160	2,500	2,930	3,420

(単位: ドル) (世銀統計)

5. 経済成長率 (実質)	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
	5.5	6.3	6.0	4.6	6.1	6.5	6.2

(単位：%) (インドネシア政府統計)

6. 物価上昇率	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
	6.6	6.6	11.1	2.8	7.0	3.8	4.3

(単位：%) (インドネシア政府統計)

7. 総貿易額	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
輸出(億ドル)	1,008.0	1,141.0	1,370.2	1,165.1	1,577.8	2,035.0	1,900
輸入(億ドル)	610.7	744.7	1,291.9	968.3	1,356.6	1,774.4	1,917

(単位：億ドル) (インドネシア政府統計)

8. 貿易品目	(1) 輸出	石油・ガス (20.4%)、鉱物性燃料 (13.5%)、動物・植物油 (10.6%)
	(2) 輸入	石油・ガス (22.9%)、一般機械機器 (13.9%)、機械・電機部品 (11.5%)

(2011 インドネシア政府統計)

9. 貿易相手国・地域 (2011年、総額)	
	(1) 輸出 日本 (16.6%)、中国 (11.3%)、シンガポール (9.1%)
	(2) 輸入 中国 (14.8%)、シンガポール (14.6%)、日本 (11.0%)

(2011 インドネシア政府統計)

10. 為替レート	1 ドル=10,848 ルピア	(2013年8月23日、インドネシア中央銀行)
-----------	-----------------	-------------------------

11. 経済概況

1997年7月のアジア通貨危機後、インドネシア政府はIMFとの合意に基づき、銀行部門と企業部門を中心に経済構造改革を断行。政治社会情勢及び金融の安定化、個人消費の拡大を背景として、2001年に3.6%であった経済成長率は、2005年以降5%後半～6%台を達成。2009年には世界金融・経済危機の影響を受けたものの、4.6%という比較的高い成長率を維持し、2011年は6.5%、2012年は6.2%と引き続き堅調な経済成長を達成。2010年には一人当たり名目GDPが3,000ドルを突破。2011年に「経済開発加速・拡大マスタープラン (MP3EI)」が発表され、全国各島にインフラ網で連結された経済回廊を形成する構想が明らかにされた。同プランでは、2025年までに、名目GDPを2010年比で約6倍に増加させ、世界の10大経済大国となる目標を掲げている。ただし、2013年以降については、世界経済の成長鈍化時の影響に留意が必要。

なお、2013年政府予算 (修正予算) は、1,926兆ルピア (燃料補助金、地方交付金を含む)。

12. 経済関係

(1) 対日貿易

(ア) 主要品目

日本への輸出：石油・天然ガス、機械機器、銅鉱、エビ、天然ゴム、合板等

日本からの輸入：一般機械、電気機器、輸送用機器等

(イ) 貿易額 (億円、財務省貿易統計)

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
対日輸出 (億円)	28,069	31,166	33,780	20,376	24,762	27,160	25,764

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
対日輸入（億円）	8,578	10,645	13,036	8,697	13,945	14,123	16,187

(2) 日本からの直接投資（実現ベース）（億ドル、インドネシア投資調整庁）
日本からの直接投資（億ドル）

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
9.0	6.2	13.7	6.8	7.1	15.2	24.6

在日インドネシア人 24,895人（2011年8月末現在：入管統計）
在留邦人数 12,469人（2011年10月1日現在：在留届に基づく）

3. アンケート

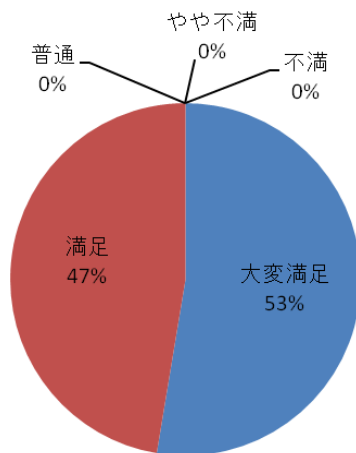
インドネシア視察ツアー参加者によるアンケート 結果報告

【アンケート実施期間】 2013年8月5日～8月31日

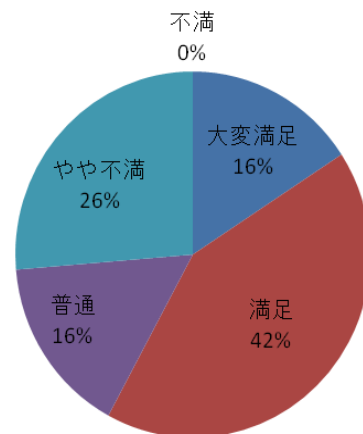
【回答率】 60%

【企画ごとの回答】

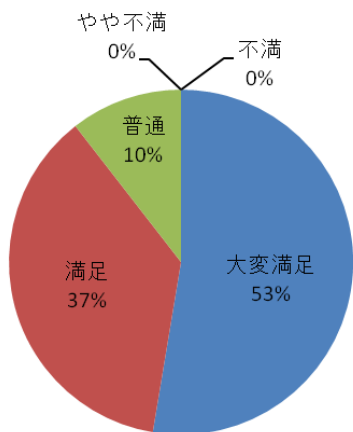
① ジャカルタ「JAC Recruitment」企業訪問



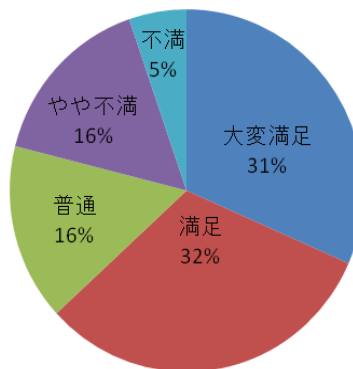
② ジャカルタ「JETRO」セミナー



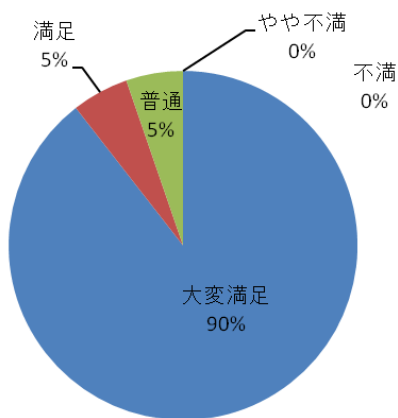
③ ジャカルタ「BEST BUY WORLD(HK)LTD.」セミナー



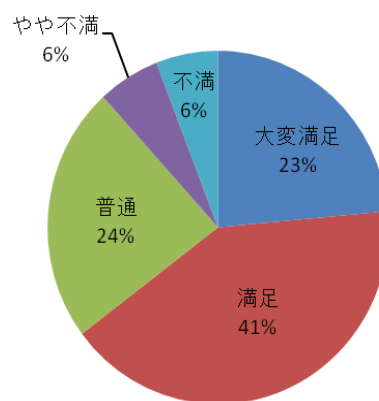
④ ジャカルタ「ショッピングモールPlazaSumanggi」視察



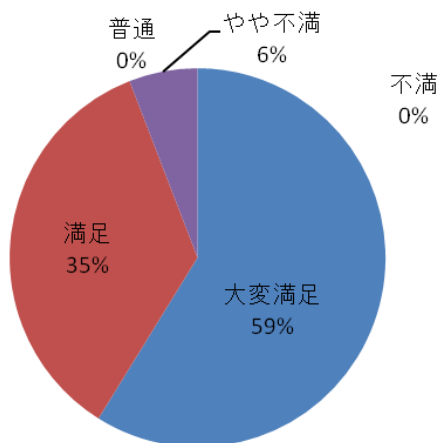
⑤ ジャカルタ「九州NBC視察団合同懇親パーティー」



⑥ バリ「バリマーケット」視察



⑦ バリ「バリ進出日系企業との懇親ディナー会」



【企画内容について】

満足度が高かった企画は、現地企業訪問及び、現地でビジネスを行っている日本企業のセミナーや懇親会であった。

- ・現在のインドネシアの、リアルなビジネス状況を知ることができた。
- ・地元の状況において、生活のレベルからビジネスまでの幅広い話しが聞けたことがよかった。
- ・本音の聞けるセミナーや懇親会は新鮮であった。

などの声があがっている。

また、他地域NBC会員とツアーを通して交流を図れたこと、九州NBCとの合同懇親会など横の交流があったことについて、多くの好評な意見が出た。

【スケジュールについて】

5日間という日数はちょうど良かった、との意見が大半である。

【次回のツアー先について】

ベトナム、フィリピン、ミャンマー等の東南アジア及び、UAE（ドバイ）、イスラエル等の中東を希望する意見が多かった。他、北米もあり。

【その他、意見】

- ・モノを作っている工場等の視察をしたかった。
- ・ディスカッションや何か課題発表などのテーマ性をもって、より その気のある方のツアーもあるとよいと思った。
- ・ショッピングセンターについては、近場のローカルも面白いとは思いますが、やはり Plaza Indonesia など、富裕層の集まる場所を見学しないと、インドネシアのインパクトがないと思うので、そこを見せてほしかった。私はあそこをみて、インドネシアマーケットのすごさを感じた。また、地下は日本食レストランばかりなので、親日ぶりも体感できたと思う。
- ・現地で気づいたことをベースに、新たなビジネスが生まれるかもしれない状況となっている。やはり実際に足を運ぶことの大切さを痛感した。
- ・視察地の観光スポットを行程に組んでいただけると、さらに印象深い視察旅行になるのではないだろうか。

以上



一般社団法人東京ニュービジネス協議会（東京NBC）

<http://www.nbc-world.net/>

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目11番28号 常和赤坂一丁目ビル7階

Tel+81 3-3584-6080 Fax+81 3-3584-6081

公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会（JNB）

<http://www.nbc-japan.net/>

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目11番28号 常和赤坂一丁目ビル7階

Tel+81 3-3584-6077 Fax+81 3-3584-6081